

第54回全日本こけしコンクール



内閣総理大臣賞

作品 「月花」(3部)
作者 まきの牧野 ひとし均 さん(山形県)

伝統を守る心

新しいものへ挑戦する心

鍛え上げられた匠の技の共演

小さなこけしには

東北の地で大切に育まれた

大きな魅力がある



1

2

後世に残る優れた作品が集結

5月3日から5日までの3日間、「第54回全日本こけしコンクール」がホワイトキューブで開催された。昨年は東日本大震災の影響で中止となった同コンクール。2年ぶりの開催となった本年は、「復活」と「復興」への思いを込めて、3日間に拡大。鍛え上げられた匠の技の共演を楽しみに、県内外から約4万人が会場に訪れた。

今回のコンクールには、全国から172人の工人が869点を出品。最高賞となる内閣総理大臣賞には、牧野均さん(山形

小さなこけしの大きな魅力

宮城伝統こけしは昭和56(1981)年、国の伝統的工芸

県(西町)の創作こけし「月花」が選ばれた。牧野さんは12年ぶり2回目の最高賞受賞。2日に行われた授賞式で牧野さんは、「この榮譽におごることなく初心に戻り、さらなる研鑽を重ね、こけし産業の振興・発展のために尽くしたい」と、受賞者62人を代表して謝辞を述べた。

また、今回、すまいる大使の山崎パニラさんが、市内小学生が絵付けしたこけしを審査。「山崎パニラ最優秀賞」には白石第二小6年の伊藤沙弥佳さんの作品が選ばれた。沙弥佳さんは、「まさかパニラさんから賞をもらえるとは思っていませんでしたので、とてもうれしいです」と笑顔で話した。

会場では、3日間にわたり多彩なイベントが開催された。会場には約1万本のこけしが集結。恒例の工人による実演販売は、3日・4日に系統別実演が行われたほか、5日には女性工人による実演が行われた。仙南地域の特産品を集めた地場産品まつりやこけし絵付け体験、甲冑試着コーナーなど、多彩なイベントで白石をPRした。

■市内在住の受賞者一覧(敬称略)

賞名	作品名	受賞者名
文部科学大臣賞	花物語(3部)	渡邊 雄二
全日本こけしコンクール会長賞	9号(1部)	新山真由美
札幌市長賞	昇り龍(4部)	新山 実
海老名市長賞	七彩ひな中(2部)	小形 律子
山形市長賞	本人型9号(梨材)(1部)	佐藤 保裕
小田原箱根商工会議所会頭賞	ヒノ木茶筒(5部)	岩崎 忠
福島商工会議所会頭賞	春をまつ子供(2本組)(2部)	加賀沼勝子
山形商工会議所会頭賞	(桜材)どきみての?(4組)(2部)	佐々木美穂
読売新聞社賞	文市型8号細型(1部)	鎌田美奈枝
東北放送賞	今三郎型10号(1部)	佐藤 英雄
エフエム仙台賞	うさぎのもちつき(4部)	新山 学

品に認定された、宮城県が全国に誇る貴重な地域資源である。弥治郎系もそのひとつ。こけしに向かうひたむきな姿、白石の風土が生み出した芸術である。認定から30年余り。その間、時代は急速に変化した。こけし産業のさらなる発展のためには、従来のこけし愛好家だけでなく、広い世代に伝えていく必要があるとも言われるが、これまで工人たちは伝統を継承しつつも、自らの創意工夫により「オンリーワン」のこけしを築き、伝統を創ってきた。伝統を守る心と新しいものへ挑戦する心が、工人たちの心から心へ受け継がれ、小さなこけしの大きな魅力へとつながっている。



3



4



5



6



8



10



7



9



11

1_文部科学大臣賞を受賞した渡邊雄二さん(越河五賀)の作品「花物語」 2_全日本こけしコンクール会長賞を受賞した新山真由美さん(福岡八宮)の作品「9号」 3_お目当てのこけしを求める観光客で会場はにぎわった 4_内閣総理大臣賞を受賞した牧野均さん 5_4月26日から並んでいた森井孝さんに風間市長からこけしが贈呈 6_子どもに大人気のこけし絵付けコーナー 7_こけしの実演販売コーナー 8_六郷仁美さん(遠刈田系) 9_梅木直美さん(蔵王高湯系) 10_新山真由美さん(弥治郎系) 11・12_山崎パニラ最優秀賞作品と作者の伊藤沙弥佳さん

10人勢ぞろい!

白石戦國武将隊「奥州片倉組」



片倉組は、本来であれば、白石市民春まつりへの参加を予定していたが、あいにくの雨で、急ぎよ会場をホワイトキューブに移し演武を披露した。メンバーの半数以上が市外在住の上、ボランティアで白石のために活動している片倉組。全員が一堂に会することが減多にない片倉組の勢ぞろいを一目見ようと、片倉組ファンもホワイトキューブに駆け付けたことで、さらにこけしコンクールの会場全体がにぎわう相乗効果となった。